

KAGA ELECTRONICS  
CO., LTD.

# 2020年3月期（第52期） 決算説明会資料

---

加賀電子株式会社  
2020年5月28日

## 目次

- 2020年3月期決算概要 P-2～
- 

2020年3月期決算サマリー  
業績ハイライト/セグメント別概況  
バランスシート/キャッシュフロー

- 経営トピックス P-20～
- 

新型コロナウイルス感染拡大への対応  
富士通エレクトロニクスPMIの進捗  
EMSビジネス競争力強化の取り組み  
エクセルの買収/新規の取り組み  
2021年3月期の展望

- 参考情報 P-29～
-

# 2020年3月期決算概要

**加賀電子株式会社**

**常務取締役 川村 英治**

# 2020年3月期決算 サマリー

## 2020年3月期実績

- 売上高は、富士通エレクトロニクス連結化の通期寄与もあり大幅増収。
- 営業利益・経常利益ともに**前回予想を超過達成、最高益を更新。**
- 当期純利益は、前期計上の**「負のれん益」解消、保有株式評価損により減益。**
- **1-3月期は新型コロナウイルス感染拡大**の中、中国など一部工場で生産一時休止するも、グループあげて影響の最小化に努めた結果、**計画を上回る着地。**
- 期末配当は、期初予想30円に**「特別配当10円」**を加え、1株当たり40円とする。  
※中間配当30円と合わせた**年間配当は1株当たり70円**

## 主なセグメントの概況

### 電子部品

- ・ EMSビジネスは医療向け、車載向けが年間通して堅調。
- ・ 部品販売ビジネスではサイプレス商権手仕舞いも大きく寄与。

### 情報機器

- ・ PC製品販売ビジネスはウィンドウズ10切替え需要取り込み伸長。
- ・ 住宅向け家電販売ビジネスは低調続く。
- ・ 商業施設向けのLED設置ビジネスも大口需要が一服し伸び悩む。

## 2021年3月期業績予想

- 新型コロナウイルス感染拡大の影響により、**現段階で合理的な算出が困難であるため「未定」とする。**
- 配当予想も、現時点では**「未定」とする。**

## 2020年3月期業績ハイライト

\* 2020年2月6日公表

(単位：百万円)

	2019/3期 実績	2020/3期 前回予想 (* )	2020/3期 実績	前年比	予想比
売上高	292,779	442,000	<b>443,615</b>	51.5%	0.4%
売上総利益	35,546	47,000	<b>47,016</b>	32.3%	0.0%
売上総利益率	12.1%	10.6%	<b>10.6%</b>		
販売費及び一般管理費	27,976	38,000	<b>37,001</b>	32.3%	▲2.6%
営業利益	7,570	9,000	<b>10,014</b>	32.3%	11.3%
経常利益	7,859	9,000	<b>10,137</b>	29.0%	12.6%
親会社株主に帰属する当期純利益	8,014	5,000	<b>5,852</b>	▲27.0%	17.0%
EPS (1株当たり当期純利益)	292.07	182.17	<b>213.21</b>	—	—
ROE	10.9	6.4	<b>7.6</b>	▲3.3pt	+1.2pt

## 2020年3月期 セグメント別業績

(単位：百万円)

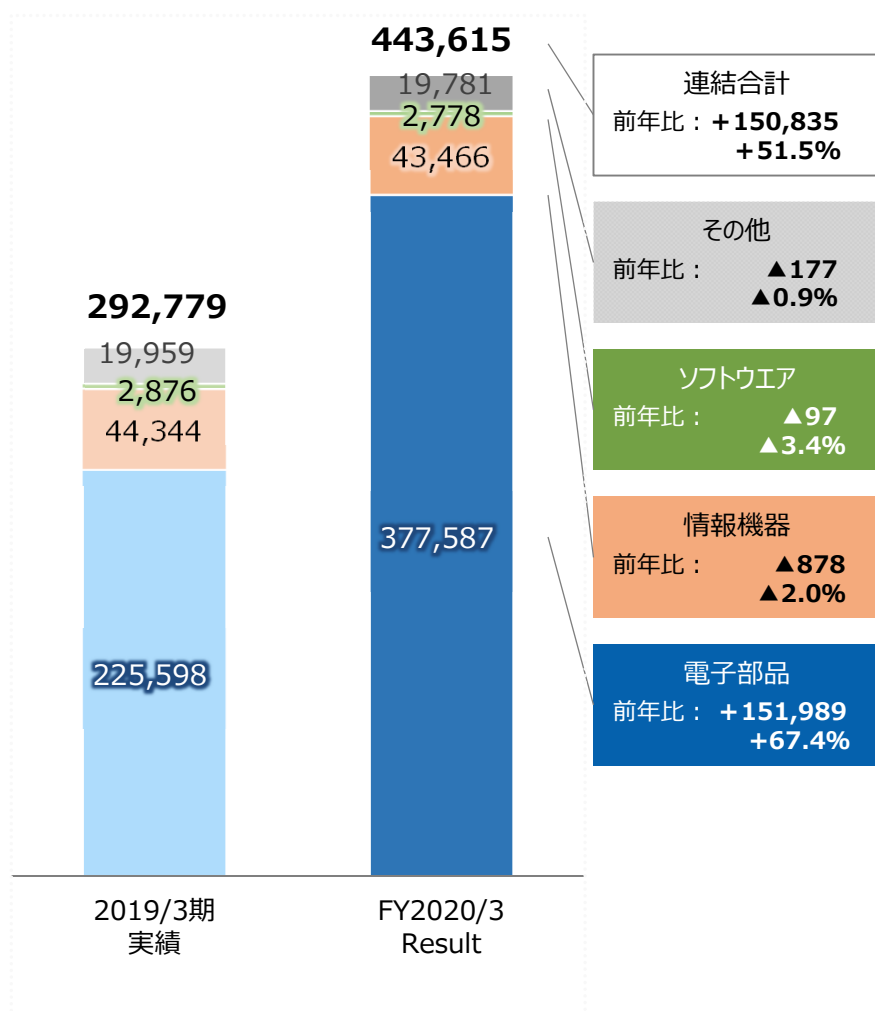
		2019/3期 実績	2020/3期 実績	前年比
電子部品	売上高	225,598	<b>377,587</b>	67.4%
	セグメント利益	4,761	<b>7,503</b>	57.6%
情報機器	売上高	44,344	<b>43,466</b>	▲2.0%
	セグメント利益	1,906	<b>1,707</b>	▲10.4%
ソフトウェア	売上高	2,876	<b>2,778</b>	▲3.4%
	セグメント利益	247	<b>236</b>	▲4.3%
その他	売上高	19,959	<b>19,781</b>	▲0.9%
	セグメント利益	490	<b>452</b>	▲7.8%
合計	売上高	292,779	<b>443,615</b>	51.5%
	セグメント利益	7,570	<b>10,014</b>	32.3%

注：セグメント利益については、各事業部門では調整前の数値を記載し、合計は調整後の数値（営業利益）を記載しております。

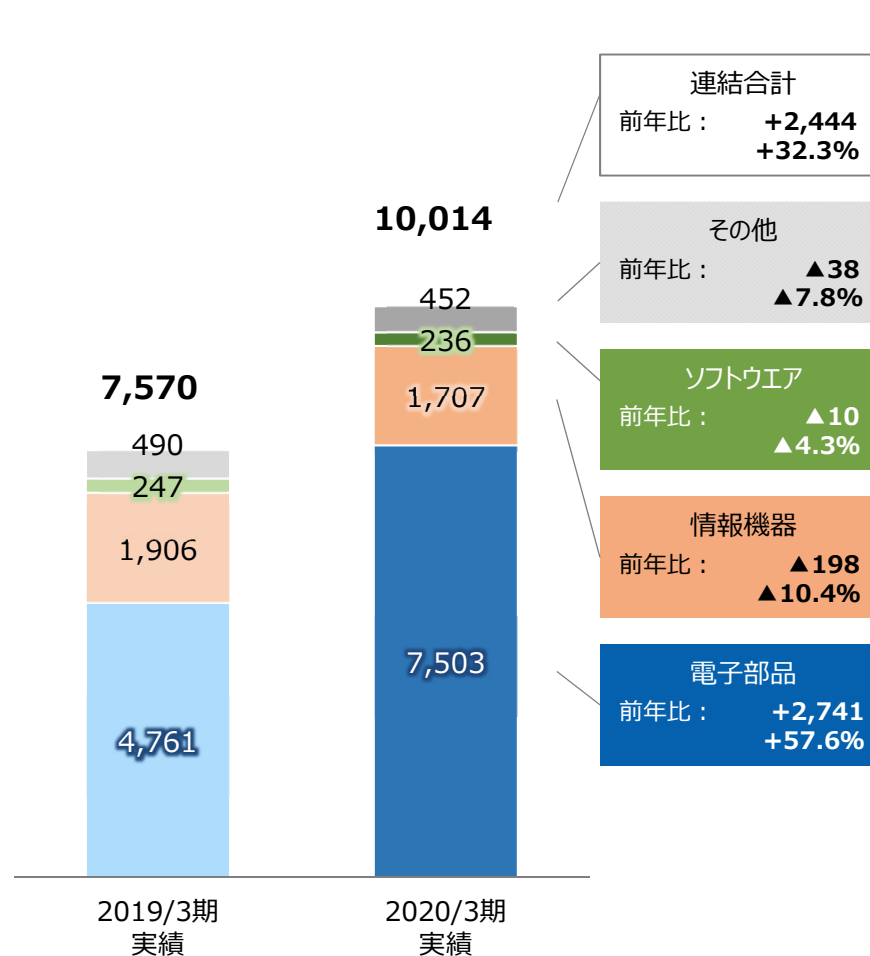
# 2020年3月期 セグメント別業績

(単位：百万円)

## 売上高



## 営業利益 (セグメント利益)

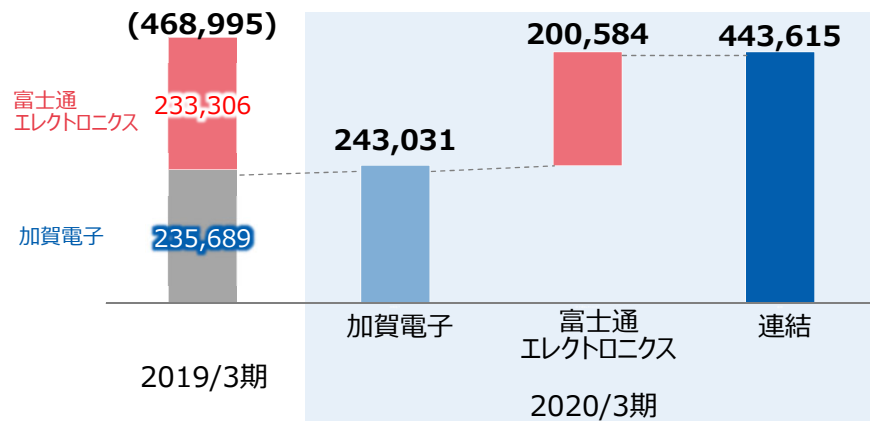


# 2020年3月期 富士通エレクトロニクス グループ会社化の影響

※単位：百万円、（ ）内は単純合算。富士通エレクトロニクスの前期実績は非開示のため参考値

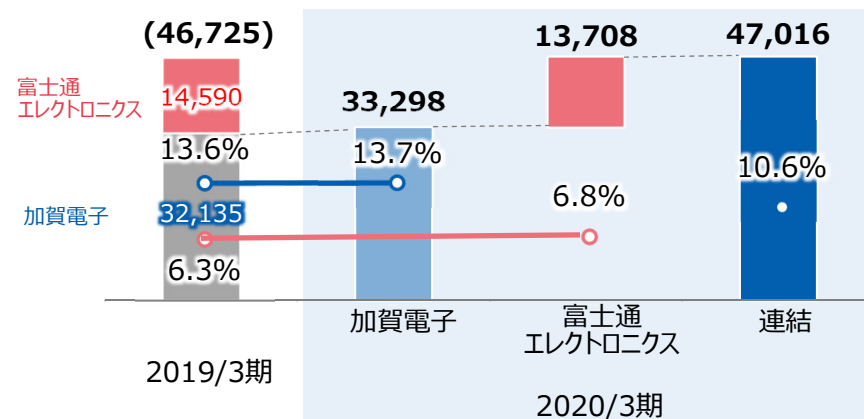
## 売上高

加賀電子はEMSが増収牽引、富士通エレクトロニクスは商権喪失により減



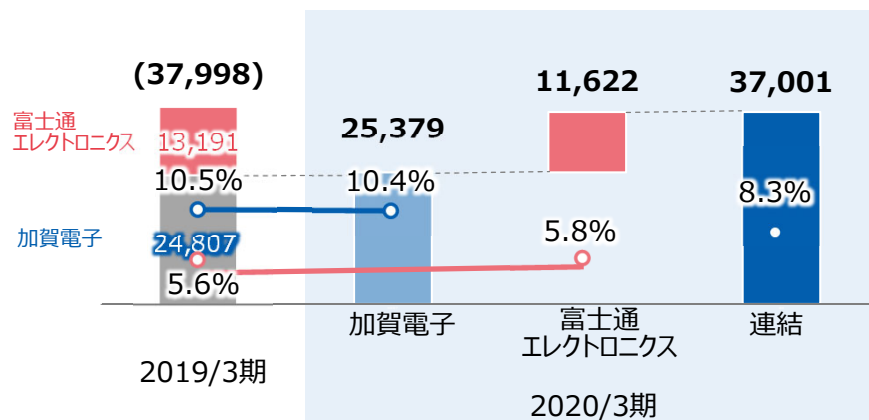
## 売上総利益 / 売上総利益率

加賀電子は増益、富士通エレクトロニクスは粗利率改善



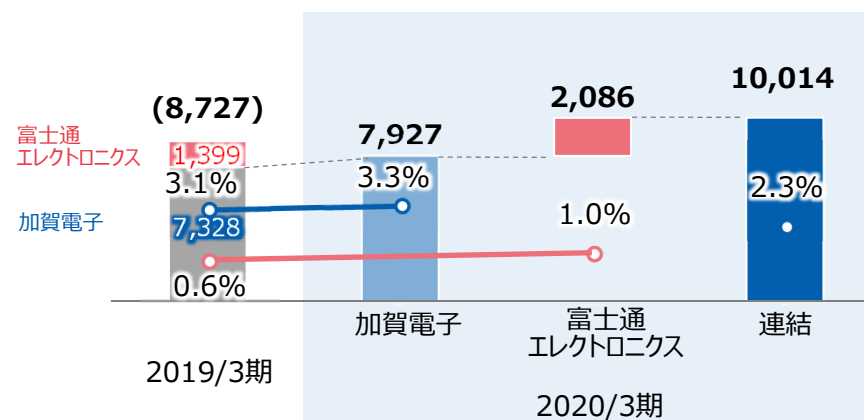
## 販管費 / 販管費率

加賀電子は販管費率抑制、富士通エレクトロニクスは人件費減



## 営業利益 / 営業利益率

加賀電子、富士通エレクトロニクスともに増益、利益率改善





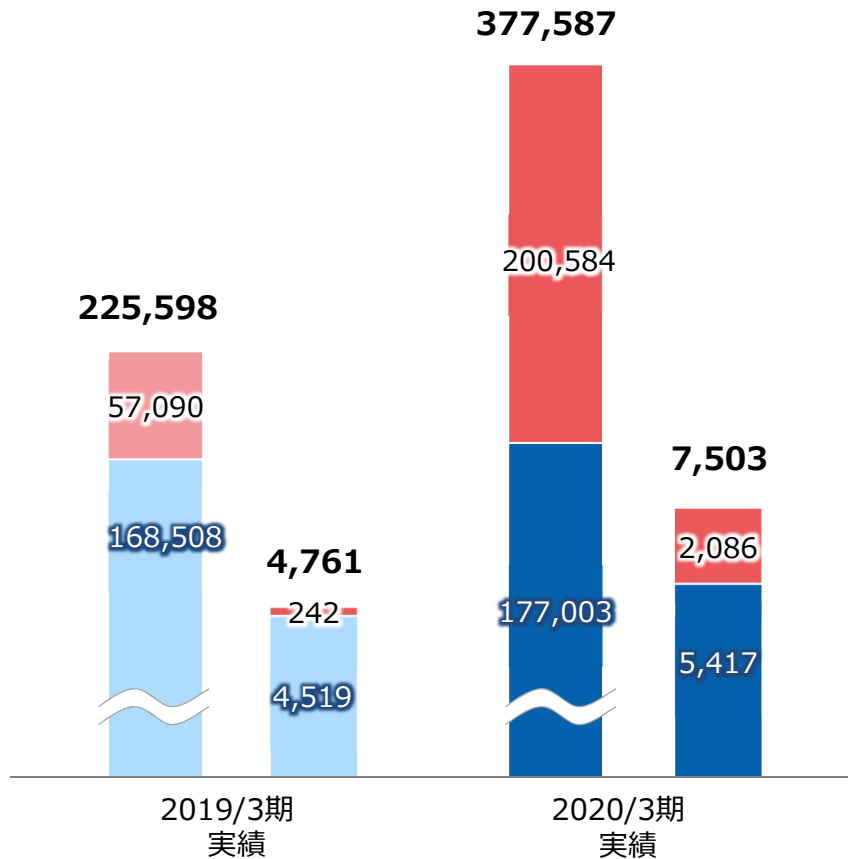
# 2020年3月期業績：電子部品事業

(単位：百万円)

## 売上高・セグメント利益

## 前年比

■ / ■ 加賀電子  
■ / ■ 富士通エレクトロニクス



- 売上高 ▶ **+151,989**百万円 **67.4%増**
- セグメント利益 ▶ **+2,741**百万円 **57.6%増**

- ・EMSビジネスは、医療機器、車載関連向けが年間を通して順調に進捗。
- ・新型コロナウイルス感染拡大で、一部海外工場の操業が休止するも、当期業績への影響は限定的。
- ・部品販売ビジネスは、車載・民生向けLEDが順調。
- ・富士通エレクトロニクスの連結化で、携帯電話や車載向けの収益が新たに加わる。
- ・サイプレスとの契約終了に伴い、一過性の収益寄与もあり。

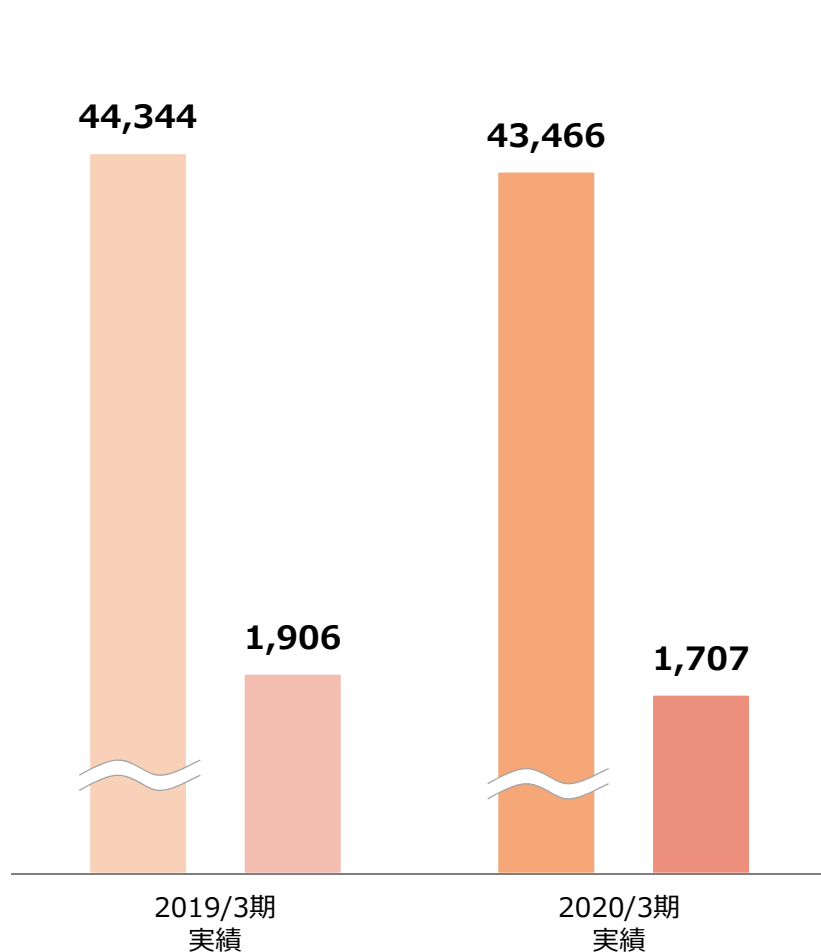


## 2020年3月期業績：情報機器事業

(単位：百万円)

売上高・セグメント利益

前年比



- 売上高 ▶ ▲878百万円 2.0%減
- セグメント利益 ▶ ▲198百万円 10.4%減

・パソコンおよびPC周辺機器販売は、ウィンドウズ10への切替え需要を取り込み、家電量販店、学校や教育機関向けに好調に推移。

・住宅向け家電販売ビジネスは、販売先の納期調整の影響を受けて低調。

・商業施設向けLED設置ビジネスは、置換え需要が一服



## 2020年3月期第4四半期 業績ハイライト（直近3ヶ月）

（単位：百万円）

	2019/3期 4Q実績	2020/3期 3Q実績	2020/3期 4Q実績	前年同期比	直前期比
売上高	118,997	108,170	<b>104,813</b>	▲11.9%	▲3.1%
売上総利益	11,522	11,474	<b>11,770</b>	2.2%	2.6%
売上総利益率	9.7%	10.6%	11.2%		
販売費及び一般管理費	9,700	8,982	<b>9,488</b>	▲2.2%	5.6%
営業利益	1,821	2,492	<b>2,282</b>	25.3%	▲8.4%
経常利益	1,859	2,428	<b>2,161</b>	16.2%	▲11.0%
親会社株主に帰属する当期純利益	3,139	1,422	<b>927</b>	▲70.5%	▲34.8%
EPS（1株当たり当期純利益）	114.38	51.82	<b>33.78</b>	—	—

## 2020年3月期第4四半期 セグメント別業績（直近3ヶ月）

（単位：百万円）

		2019/3期 4Q実績	2020/3期 3Q実績	2020/3期 4Q実績	前年同期比	直前期比
電子部品	売上高	100,704	93,708	<b>84,060</b>	▲16.5%	▲10.3%
	セグメント利益	981	2,180	<b>1,084</b>	10.5%	▲50.2%
情報機器	売上高	11,970	9,820	<b>13,677</b>	14.3%	39.3%
	セグメント利益	567	236	<b>853</b>	50.4%	261.6%
ソフトウェア	売上高	933	455	<b>990</b>	6.1%	117.3%
	セグメント利益	125	▲37	<b>226</b>	81.4%	—
その他	売上高	5,388	4,185	<b>6,085</b>	12.9%	45.4%
	セグメント利益	75	105	<b>87</b>	17.0%	▲16.4%
合計	売上高	118,997	108,170	<b>104,813</b>	▲11.9%	▲3.1%
	セグメント利益	1,821	2,492	<b>2,282</b>	25.3%	▲8.4%

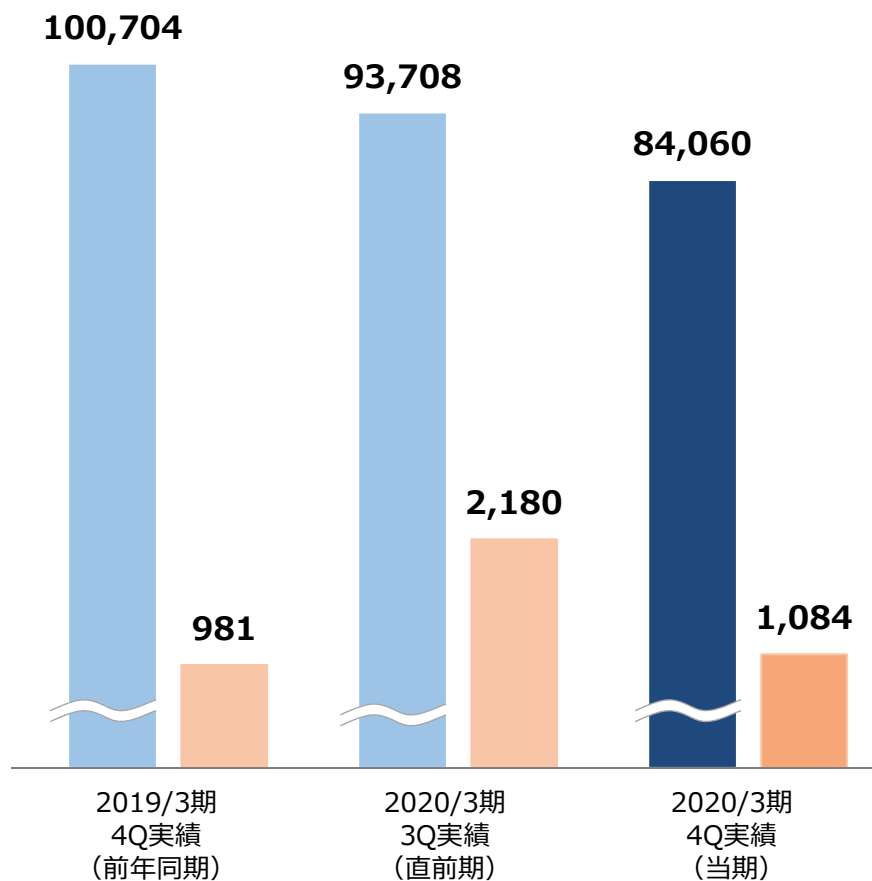
注：セグメント利益については、各事業部門では調整前の数値を記載し、合計は調整後の数値（営業利益）を記載しております。

## 2020年3月期第4四半期業績：電子部品事業（直近3ヵ月）

(単位：百万円)

### 売上高・セグメント利益

■ / ■ 売上高  
■ / ■ セグメント利益



### 前年同期比

- 売上高 ▶ ▲ 16,644百万円 16.5%減
- セグメント利益 ▶ + 102百万円 10.5%増

### 直前期比

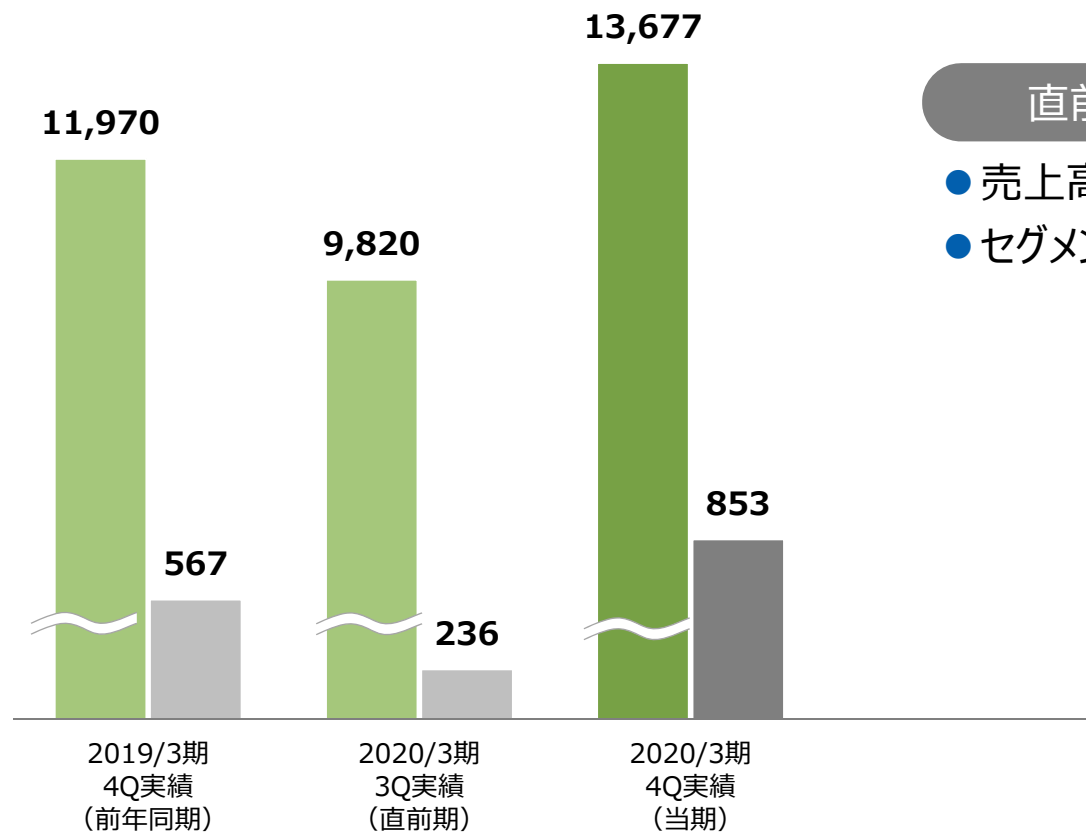
- 売上高 ▶ ▲ 9,648百万円 10.3%減
- セグメント利益 ▶ ▲ 1,095百万円 50.3%減

## 2020年3月期第4四半期業績：情報機器事業（直近3ヵ月）

(単位：百万円)

### 売上高・セグメント利益

■ / ■ 売上高  
■ / ■ セグメント利益



### 前年同期比

- 売上高 ▶ + 1,706百万円 14.3%増
- セグメント利益 ▶ + 286百万円 50.4%増

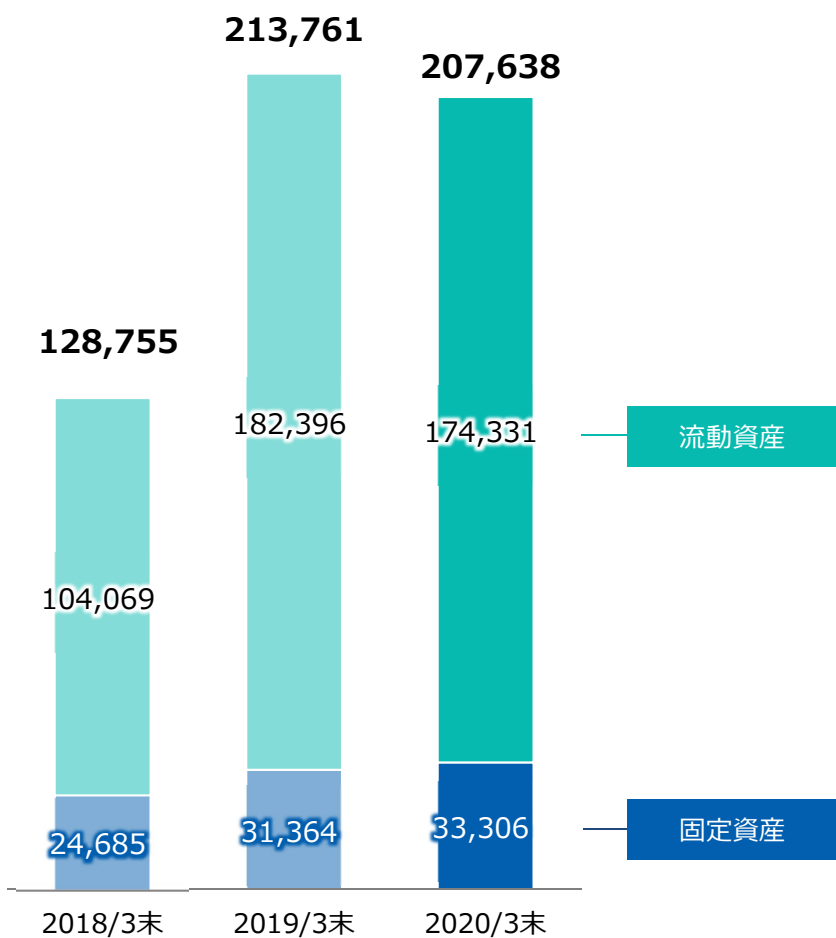
### 直前期比

- 売上高 ▶ + 3,856百万円 39.3%増
- セグメント利益 ▶ + 617百万円 261.6%増

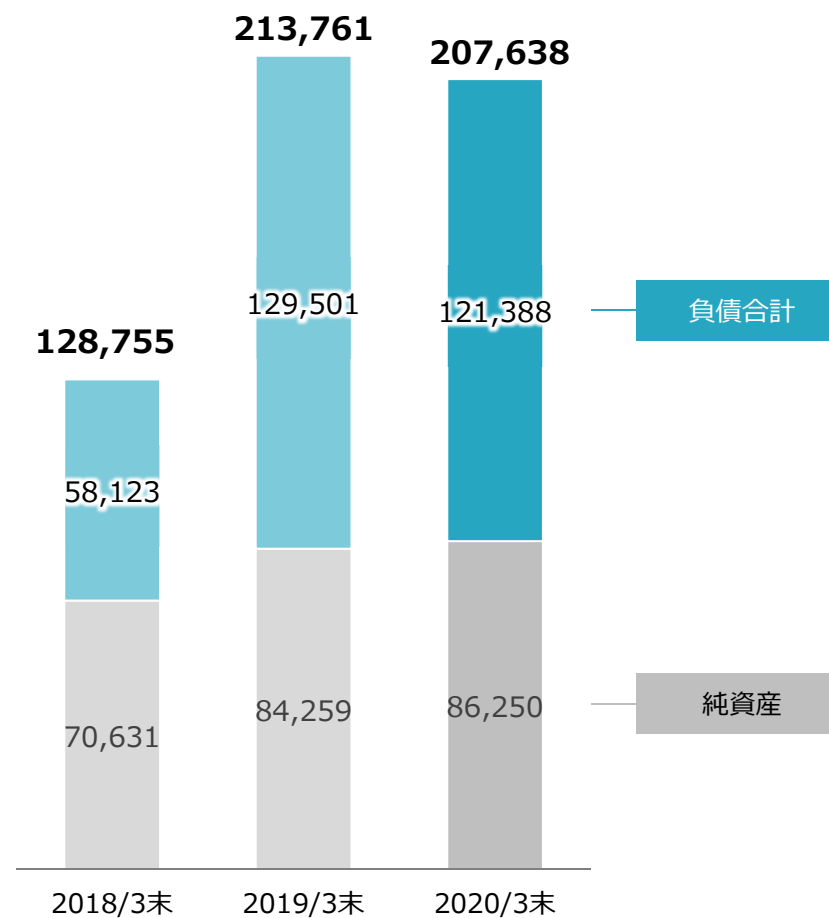
# 財政状態計算書主要項目

(単位：百万円)

## 資産



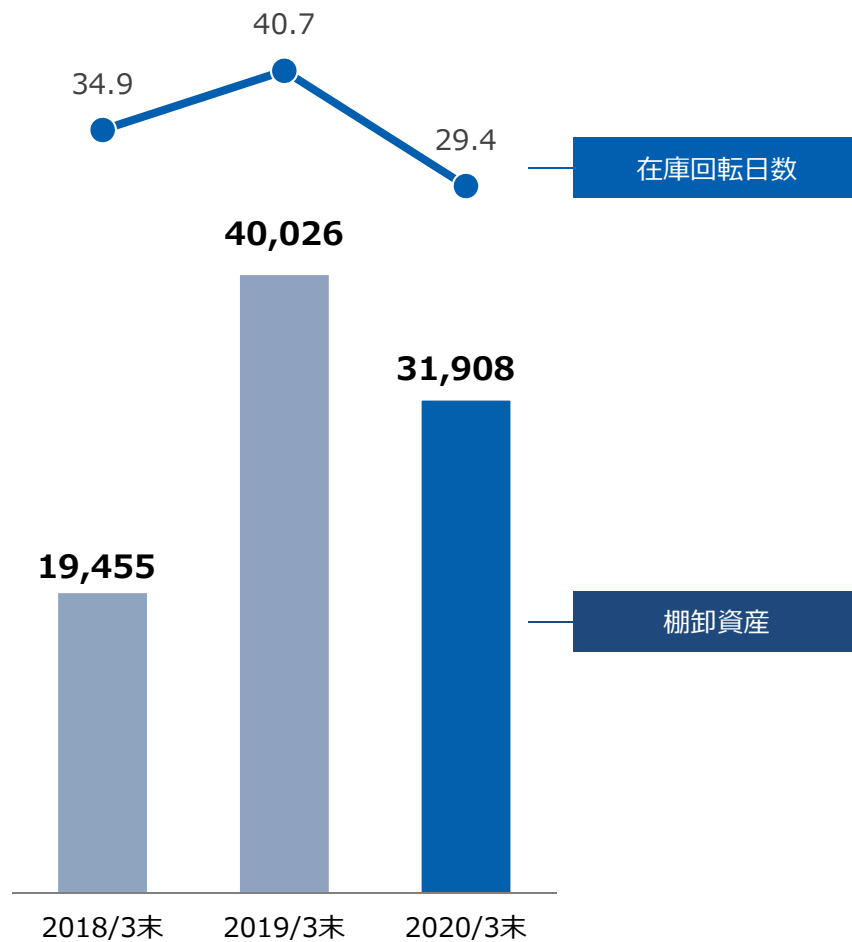
## 負債・純資産



# 財政状態計算書主要項目

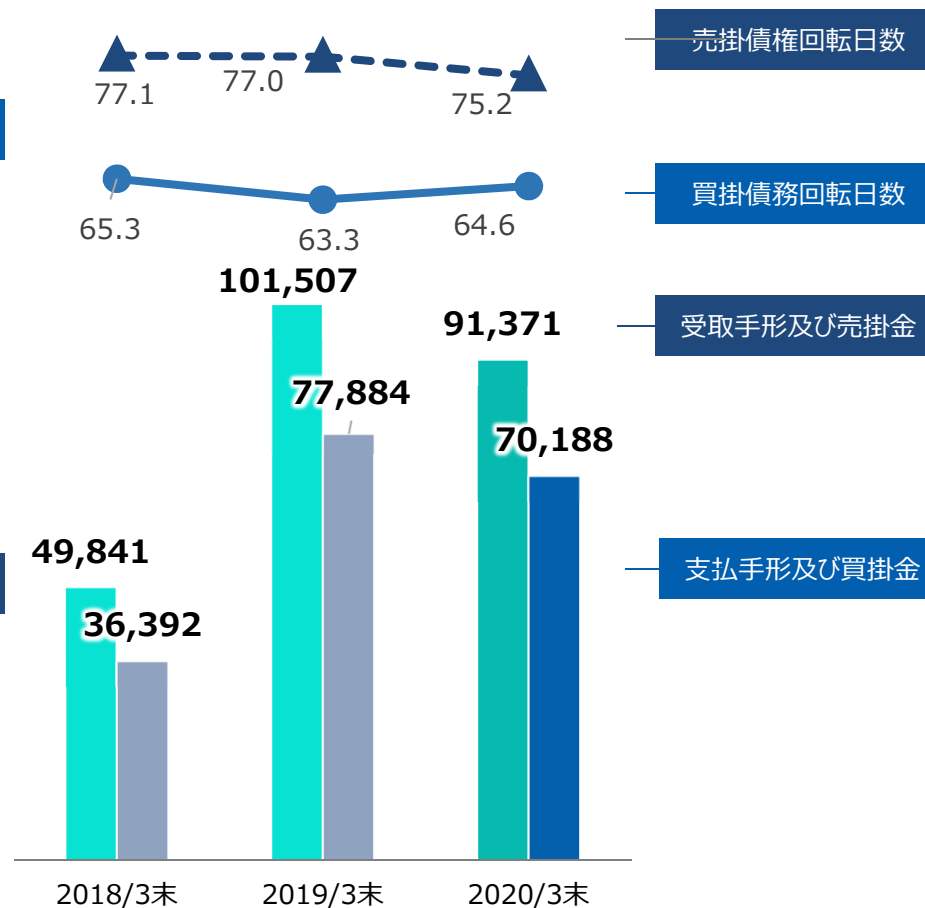
(単位：百万円、日)

## 棚卸資産



注：在庫回転日数 = 棚卸資産 ÷ 売上原価 × 365 (日)

## 売掛金・買掛金



注：受取手形及び売掛金については、電子記録債権を含めた金額となっております。

売掛債権回転日数 = 受取手形及び売掛金 ÷ 売上高 × 365 (日)

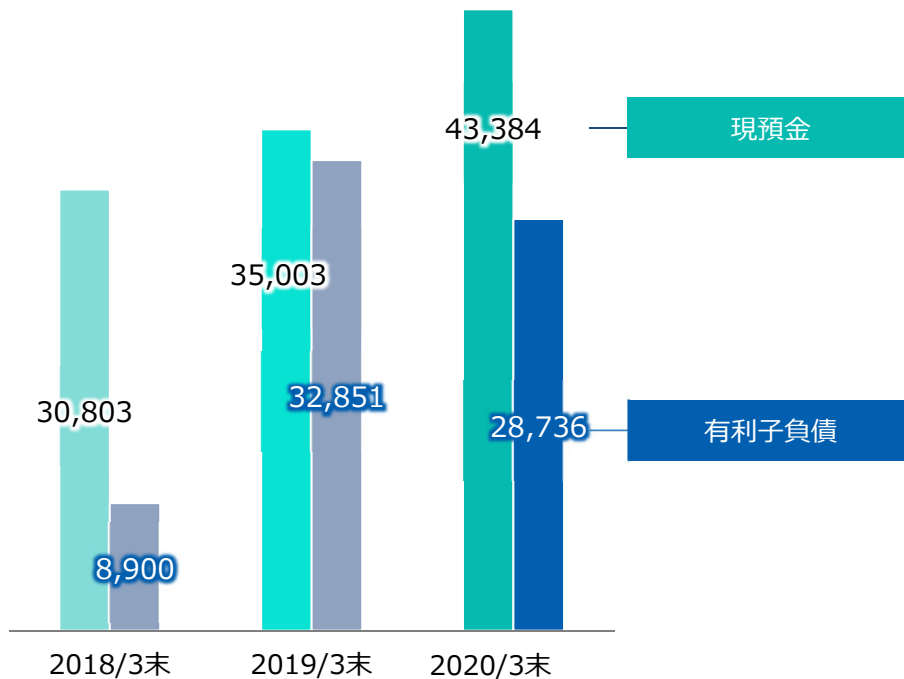
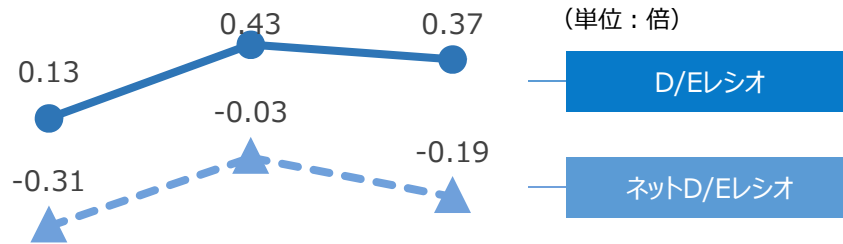
買掛債権回転日数 = 支払手形及び買掛金 ÷ 売上原価 × 365 (日)



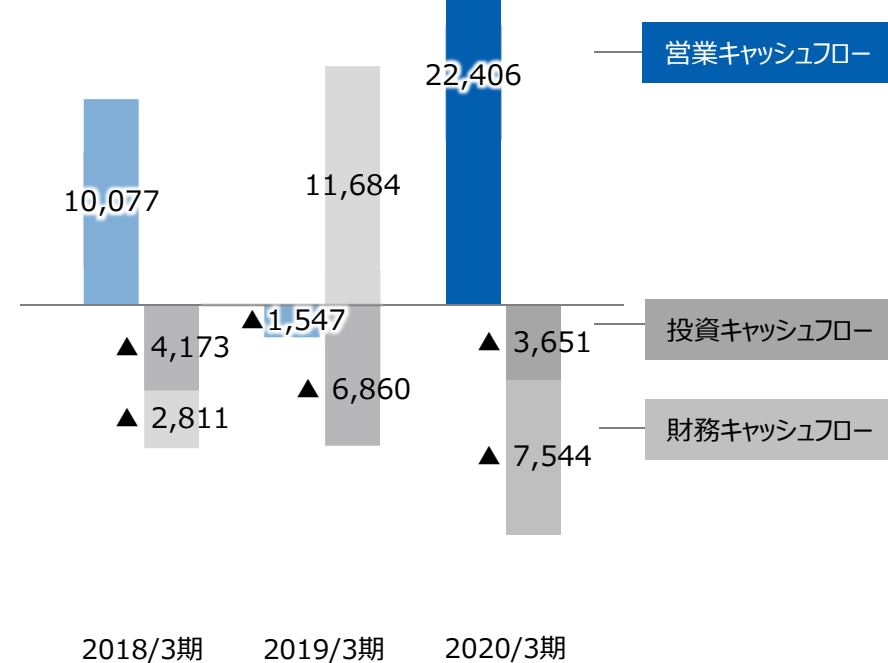
# 現預金・有利子負債/キャッシュフロー

(単位：百万円)

## 現預金・有利子負債



## キャッシュフロー

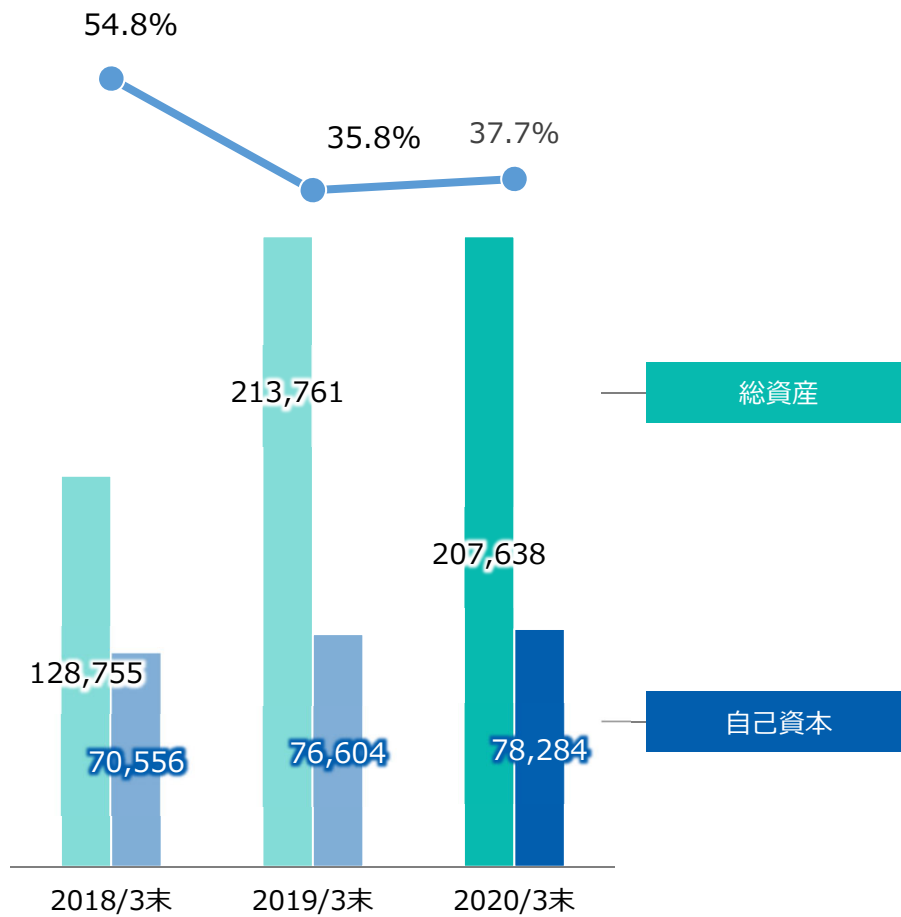


注：D/Eレシオ = 有利子負債 ÷ 自己資本  
 ネットD/Eレシオ = (有利子負債 - 現預金) ÷ 自己資本

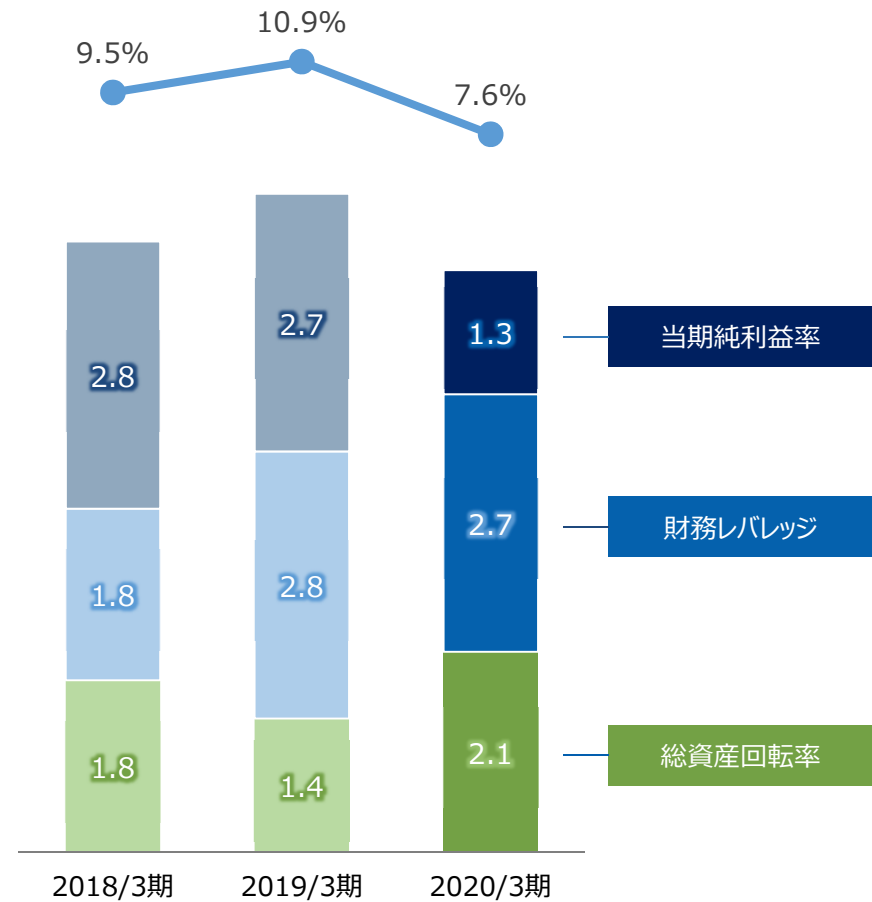
# 経営指標：安定性・効率性

(単位：百万円)

## 自己資本比率

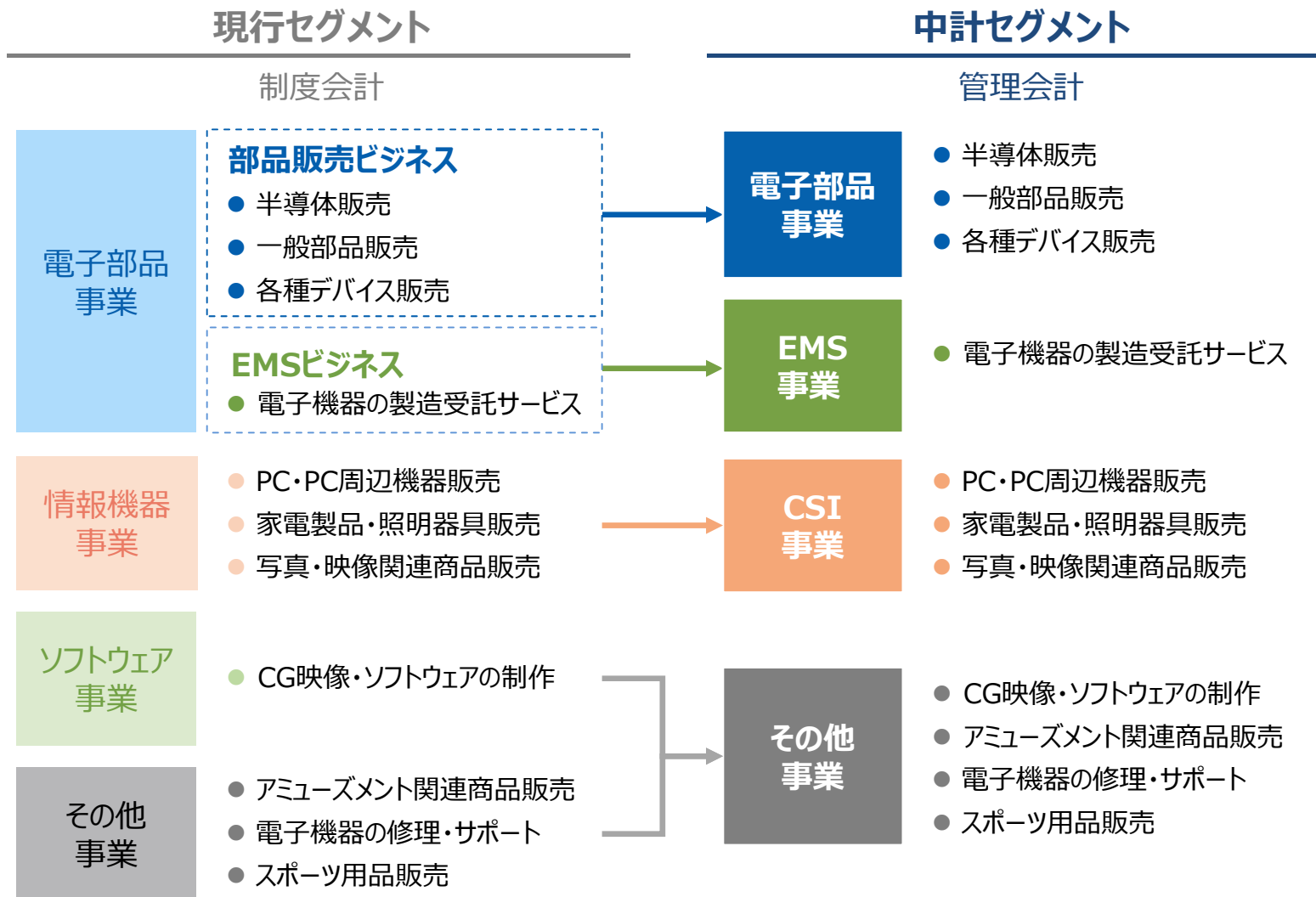


## ROE (自己資本利益率)



## 新中計スタートに伴うセグメント開示に関して

制度会計としての現行セグメントでの継続開示と併せ、新中計に沿ったセグメントによる任意開示を行う



## 2020年3月期 中計セグメント別業績

\* 2020年2月6日公表

(単位：百万円)

		2019/3期 実績	2020/3期 前回予想(*)	2020/3期 実績	前年比	予想比
電子部品	売上高	145,042	290,000	<b>292,905</b>	101.9%	1.0%
	セグメント利益	2,278	4,000	<b>3,553</b>	56.0%	▲11.2%
EMS	売上高	89,481	100,000	<b>93,340</b>	4.3%	▲6.7%
	セグメント利益	2,667	3,500	<b>4,015</b>	50.5%	14.7%
CSI	売上高	44,344	39,000	<b>43,466</b>	▲2.0%	11.5%
	セグメント利益	1,906	1,000	<b>1,707</b>	▲10.4%	70.7%
その他	売上高	13,912	13,000	<b>13,902</b>	▲0.1%	6.9%
	セグメント利益	554	500	<b>623</b>	12.5%	24.6%
合計	売上高	292,779	442,000	<b>443,615</b>	51.5%	0.4%
	セグメント利益	7,570	9,000	<b>10,014</b>	32.3%	11.3%

注：セグメント利益については、各事業部門では調整前の数値を記載し、合計は調整後の数値（営業利益）を記載しております。

# 経営トピックス

加賀電子株式会社

代表取締役社長 門 良一

## 新型コロナウイルス感染拡大への対応

<p>加賀電子 本社</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 2月27日、「新型コロナウイルス対策委員会」を設置。当社グループ全社員の人命の安全・安心を第一に、海外駐在員退避・家族対応を行うとともに、BCPとして本社から物資支援・人的派遣等を意思決定し、迅速に実施。</li> <li>● 4月7日～5月末日の間、「緊急事態宣言・外出自粛要請」に対応して、全社で「テレワーク/時差通勤」を推進継続中。（オフィス出勤率：22%/5月平均）</li> <li>● 6月1日より、段階的緩和措置を講じていく。</li> </ul>	
<p>営業拠点</p>	<p>国内</p>	<p>・ 政府および地方自治体の指導に従い、「テレワーク/時差通勤」を実施しながら営業活動を継続。</p>
<p>生産拠点</p>	<p>国内</p>	<p>・ 政府および地方自治体の指導に従い、安全対策を実施しながら最小限の人数で操業を継続。</p>
	<p>海外</p>	<p>・ メキシコ、インドは5月中は操業休止。それ以外の中国、アジア、欧州では各国政府や州、地域行政機関の指導に従い、安全対策を実施しながら操業を継続。</p>

## 富士通エレクトロニクス PMIの進捗状況

収益性改善

Good News

- 売上総利益率が前年比で0.5ポイント改善  
6.3%/2019年3月期 ➡ 6.8%/2020年3月期  
<要因> サイプレス手仕舞いに伴う一過性利益あるも、販売ミックスは改善傾向

固定費削減

Good News

- 販管費が前年比で約15億円縮減  
131億円/2019年3月期 ➡ 116億円/2020年3月期  
<要因> 大口商権喪失に伴う販社合理化に自然減も加わり人件費が縮減

大口商権の  
喪失

Bad News

- サイプレス（米国）の代理店権解消（19年10月）
- 三重富士通セミコンダクタのUMC（台湾）への事業譲渡に伴う、同社生産品の商流変更（20年3月）

## 富士通エレクトロニクス PMIの進捗状況

<p>EMSの 取り組み</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 現時点で、車載機器メーカー、電機メーカーなど4社から受注・内定を獲得 90社/アプローチ ➡ 37社/商談継続中</li> </ul> <p>&lt;注目&gt;加賀電子+富士通エレクトロニクスの強みを活かした大型商談が進行中</p>				
<p>クロスセルの 取り組み</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 加賀電子が持つ有力商材を大手車載系顧客等へ売り込み強化</li> </ul> <p>&lt;注目&gt;21年度～23年度での収益本格化に向けて大型商談が進行中</p>				
<p>営業拠点の 統廃合</p>	<p>※略称：加賀電子→KG 富士通エレクトロニクス→FEI</p> <table border="1"> <tr> <td data-bbox="577 916 786 1139"> <p>国内</p> </td> <td data-bbox="797 916 2020 1139"> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ FEI名古屋オフィスをKG名古屋営業所に移転 [19年9月]</li> <li>・ FEI広島営業所を閉所、KG関西営業所へ統合 [19年12月]</li> <li>・ FEI長岡営業所を閉所、KG新潟営業所へ統合 [20年2月]</li> </ul> </td> </tr> <tr> <td data-bbox="577 1147 786 1362"> <p>海外</p> </td> <td data-bbox="797 1147 2020 1362"> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ KG米国販社を清算、FEI米国販社へ事業譲渡 [21年春]</li> <li>※これに先駆け、中西部では両社営業拠点を統合 [20年夏]</li> <li>・ KG、FEIの韓国販社についても見直し検討中 [21年春目途]</li> </ul> </td> </tr> </table>	<p>国内</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ FEI名古屋オフィスをKG名古屋営業所に移転 [19年9月]</li> <li>・ FEI広島営業所を閉所、KG関西営業所へ統合 [19年12月]</li> <li>・ FEI長岡営業所を閉所、KG新潟営業所へ統合 [20年2月]</li> </ul>	<p>海外</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ KG米国販社を清算、FEI米国販社へ事業譲渡 [21年春]</li> <li>※これに先駆け、中西部では両社営業拠点を統合 [20年夏]</li> <li>・ KG、FEIの韓国販社についても見直し検討中 [21年春目途]</li> </ul>
<p>国内</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ FEI名古屋オフィスをKG名古屋営業所に移転 [19年9月]</li> <li>・ FEI広島営業所を閉所、KG関西営業所へ統合 [19年12月]</li> <li>・ FEI長岡営業所を閉所、KG新潟営業所へ統合 [20年2月]</li> </ul>				
<p>海外</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ KG米国販社を清算、FEI米国販社へ事業譲渡 [21年春]</li> <li>※これに先駆け、中西部では両社営業拠点を統合 [20年夏]</li> <li>・ KG、FEIの韓国販社についても見直し検討中 [21年春目途]</li> </ul>				



# EMSビジネス競争力強化の取り組み



生産能力の増強



ものづくり力の強化



エンジニアリング力の強化

## 十和田パイオニアの買収



社名: 加賀EMS十和田(株)  
所在: 青森県十和田市  
事業内容: 車載用電子機器、医療機器の基板実装、完成品製造  
稼働: 2019年10月 (パイオニア(株)より事業譲渡)

## アマタナコン第2工場



社名: KAGA ELECTRONICS (THAILAND) CO., LTD.  
アマタナコン第2工場  
所在: タイ国チョンブリー県  
事業内容: 複合機、プリンタ、車載関連製品の基板実装  
稼働: 2019年12月

## 福島事業所



社名: 加賀マイクロソリューション(株) 福島事業所  
所在: 福島県須賀川市  
事業内容: 通信機器、PCおよびPC周辺機器の製造・修理・リユース・リサイクル  
稼働: 2019年10月

## 中国合弁事業(生産設備の自社開発)



社名: 蘇州路遠加賀実装技術開発有限公司  
所在: 中国江蘇省蘇州市  
事業内容: 基板実装設備一式の開発・製造・外販  
稼働: 2019年12月

## エクセルのグループ会社化について

買収のスキーム	<ul style="list-style-type: none"><li>● 2020年4月1日：CI11によるエクセルの完全子会社化後、資産を分割。同日、同社の一部資産とともに事業譲渡、加賀電子の完全子会社とする。</li></ul>						
取得価額 (概算)	<table><tr><td>・ エクセルの普通株式</td><td>100百万円</td></tr><tr><td>・ アドバイサリー費用</td><td>176百万円</td></tr><tr><td>合計</td><td>276百万円</td></tr></table>	・ エクセルの普通株式	100百万円	・ アドバイサリー費用	176百万円	合計	276百万円
・ エクセルの普通株式	100百万円						
・ アドバイサリー費用	176百万円						
合計	276百万円						
財務への影響	<ul style="list-style-type: none"><li>● [負のれん益：82億円] を2021年3月期特別利益として計上見込み</li><li>※ 同社の運転資金として80億円を短期借入により資金調達</li></ul>						
買収の狙い	<ul style="list-style-type: none"><li>● 電子部品ビジネスのシェア拡大：液晶デバイス商材、中国顧客基盤を共有</li><li>● EMSビジネスの事業規模拡大：外部工場から当社自社工場へ切り替え</li><li>● 新規事業の獲得：EV関連など有望テーマの早期事業化を支援</li><li>● 経営効率の向上：販売関連組織、管理間接部門を最適化</li></ul>						

## 新規の取り組み：第5世代移動通信システム（5G）



### 電子部品

- 基地局向け電源装置、熱交換器、
- ミリ波アンテナ向けASIC、
- 車載通信チップ（C-V2Xモジュール）向け低ノイズアンプ、等を販売

### 完成品他

- 5G携帯ネットワーク向け光トランシーバー、
- モバイルルーター、通信モジュール、ローカル5G用Wi-Fiアクセスポイント、等を販売
- 5G事業者各社へのゲームIP（コンテンツ）、等を展開

## 新規の取り組み：米国ベル社製ヘリコプタービジネス



### 経緯・概要

- 2019年株主総会にて定款を変更、「航空機、無人航空機」を目的事項に追加。
- (株)ユーロテックジャパンと提携、ヘリコプターの調達-販売-保守の一貫体制を構築。
- 搭載用通信機器販売でのシナジー効果を見込むとともに、昨今頻発する大規模災害に対する地方自治体の「防災ヘリ整備」といった社会課題解決に貢献。

### 納入実績と見通し

- 2020年3月期：県庁防災ヘリ用途など4機販売。
- 2021年3月期：県警防災ヘリ用途など2機受注。
- 機材本体の販売収益に加えて、安定的に保守料収益を見込む。

## 2021年3月期事業環境と業績見通しについて

### 当社グループの BCP状況

- EMS生産拠点：メキシコ、インド以外の全ての生産拠点は操業を継続中。
- 国内営業拠点：5月まではテレワーク主体、6月以降は通常勤務体制に復帰予定。
- 海外営業拠点：各国行政機関の指導に従い、安全対策を実施しながら営業活動を継続中。

### サプライチェーン の状況

- 部材メーカーの中国生産は概ね復旧するも、一部部材の需給にタイト感あり
- コロナ終息に不透明感残り、最終需要の回復時期は見通せず。
- 特に、自動車関連は国内外で大幅な減産続く。電機など一般消費財も立ち直りに時間要す。

### 2021年3月期 業績予想について

- 上記の状況に鑑み、合理的に予想することは困難なため、**現時点では「未定」とする。**
- 大まかな方向感としては、**売上高から営業利益はコロナ影響およびサイプレス等大口商権喪失により減収減益、当期純利益は「負のれん益」計上で増益**、を目線におく。
- 次期業績予想が未定なため、**配当予想についても現時点では「未定」とする。**

### コロナ影響下 での 経営の構え

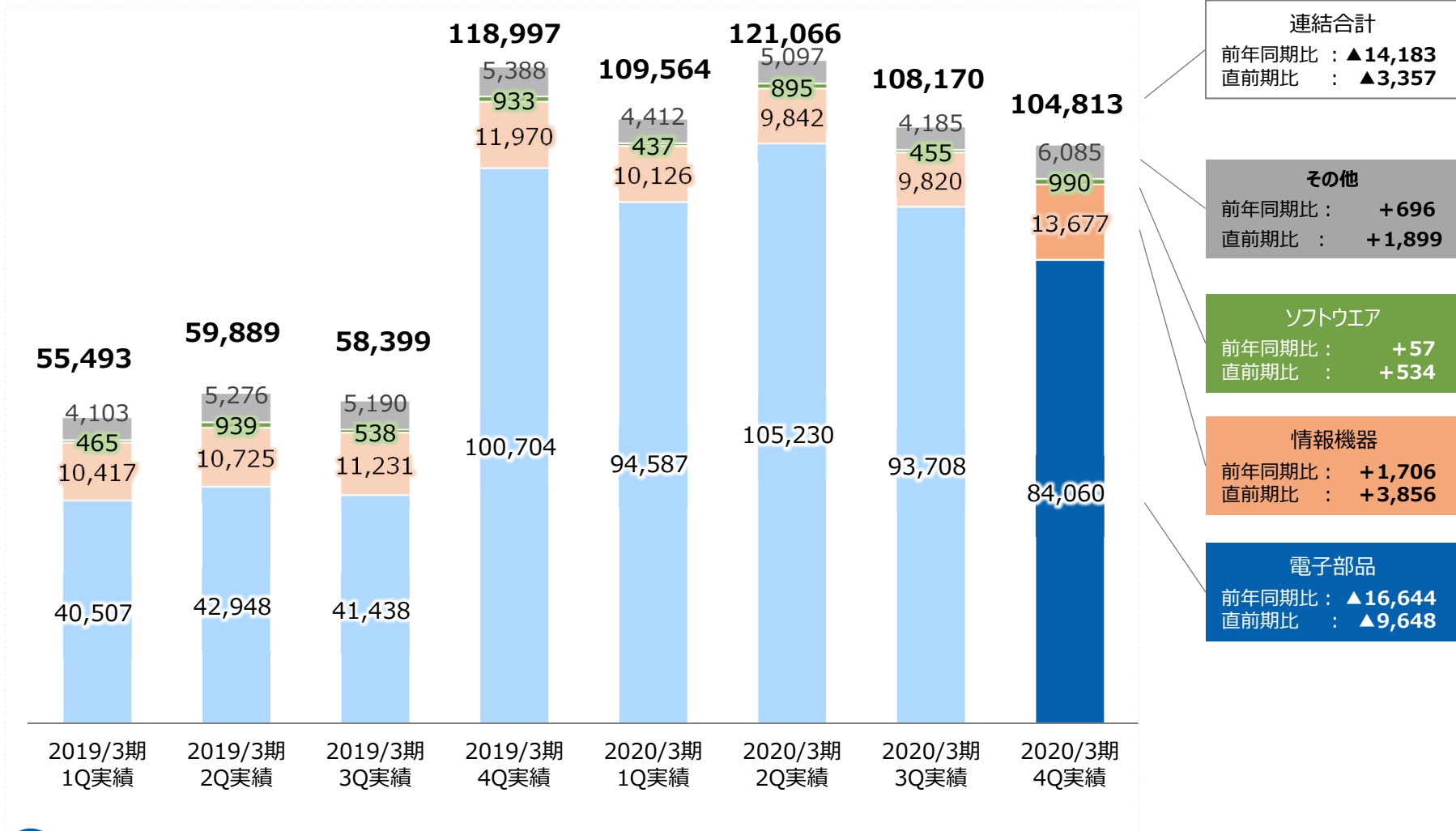
- **コロナ終息には、最低でも1年、長ければ3年程度**の時間を要すものと覚悟する。
- 不測の事態に備えて、**運転資金は出来るだけ潤沢に確保**する。  
※手持ち現預金434億円+コミットメントライン150億円
- **“コロナ後”を見据えた構造改善**に着手するも、当面は従業員の安全と雇用の確保を優先する。

## 參考資料

# 事業部門別業績 四半期推移①

(単位：百万円)

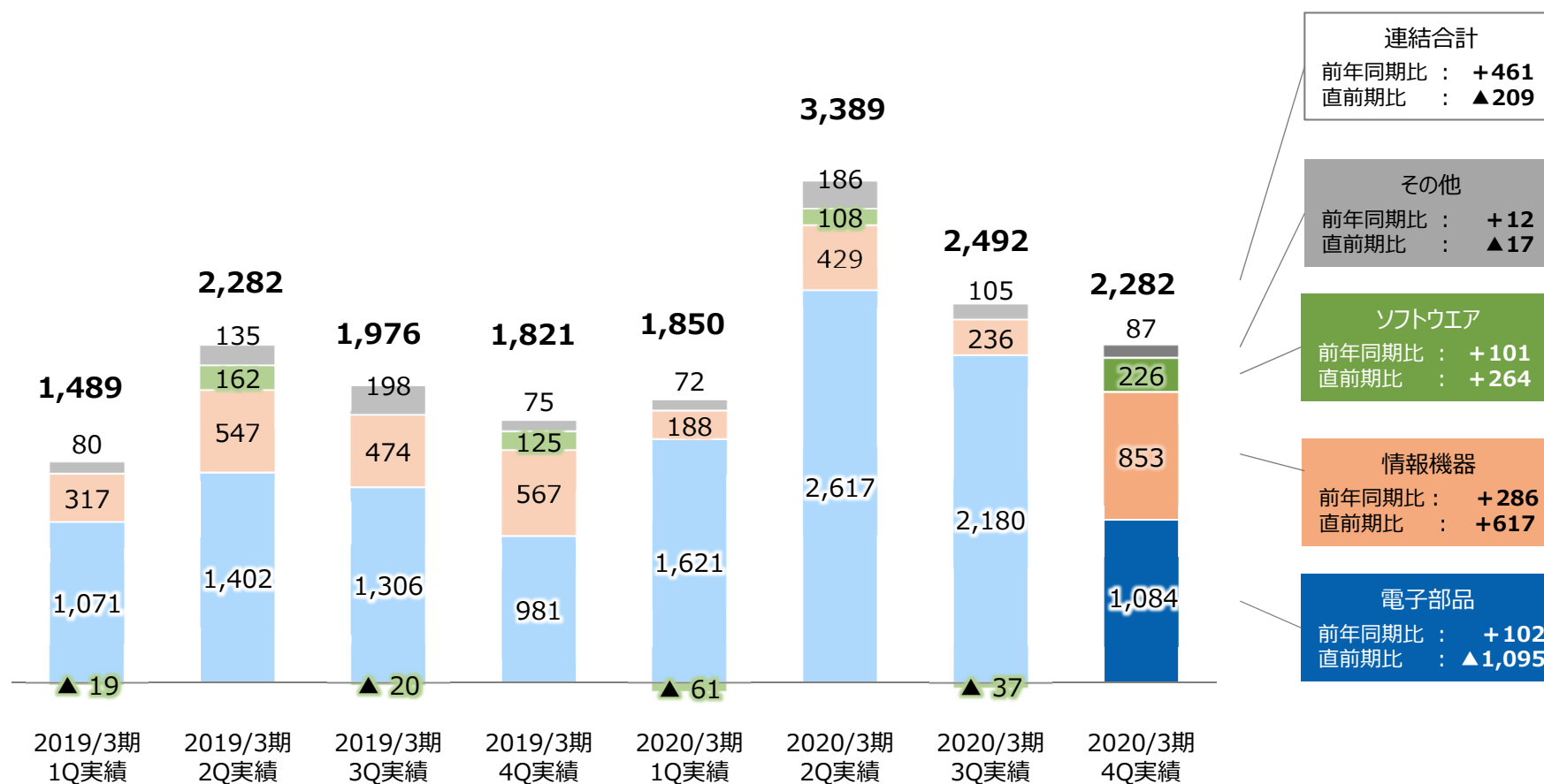
## 売上高



## 事業部門別業績 四半期推移②

(単位：百万円)

### 営業利益（セグメント利益）



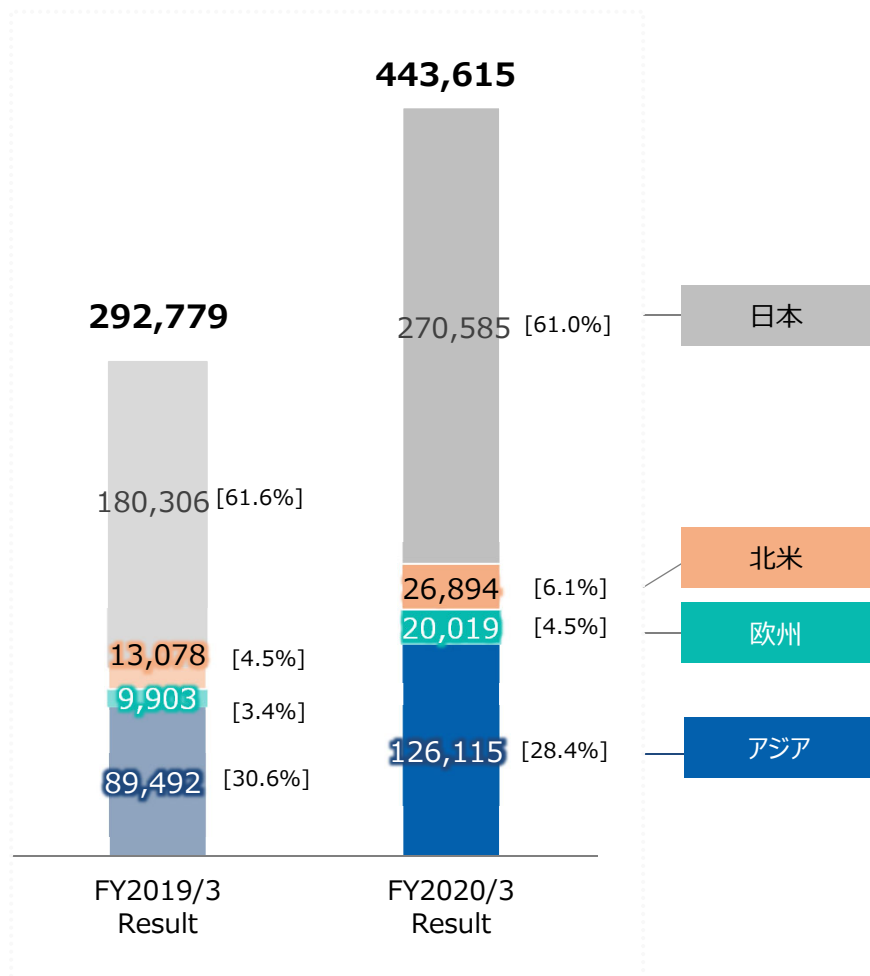


# 2020年3月期業績：地域別売上高

(単位：百万円)

## 売上高

## 前年比



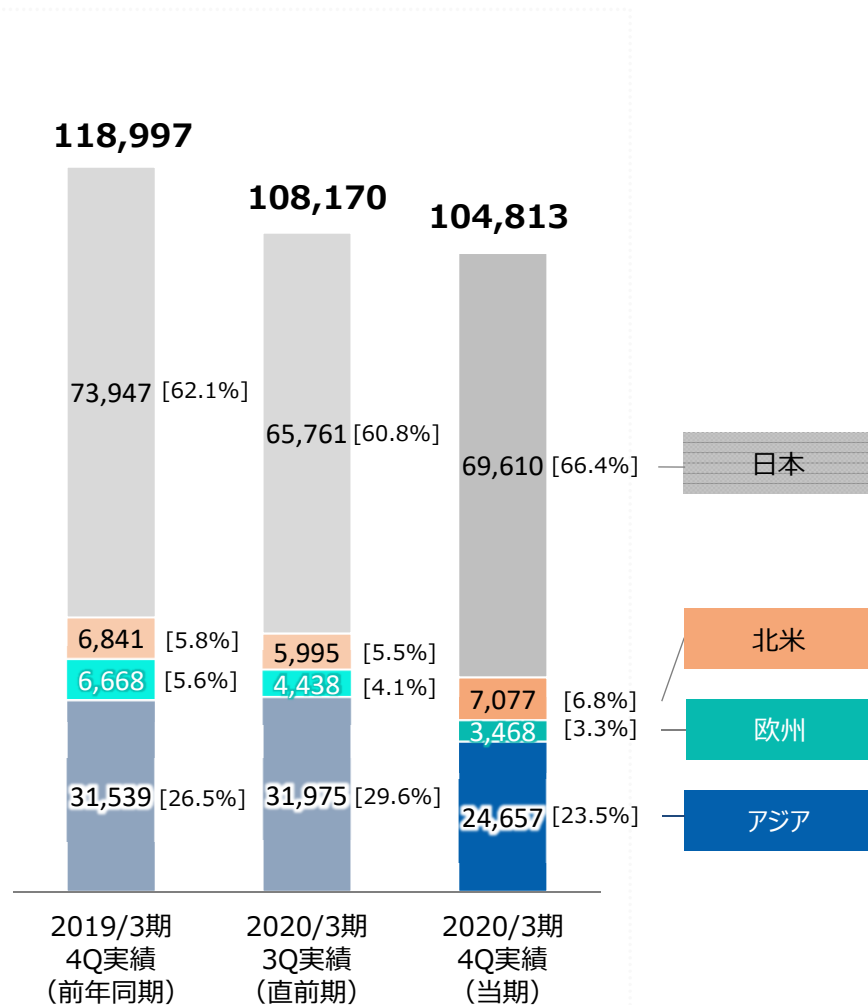
- 日本 ▶ **+90,279**百万円 **50.1%増**
- 北米 ▶ **+13,815**百万円 **105.6%増**
- 欧州 ▶ **+10,115**百万円 **102.1%増**
- アジア ▶ **+36,623**百万円 **40.9%増**



# 2020年3月期第4四半期業績：地域別売上高（直近3ヵ月）

(単位：百万円)

## 売上高



## 前年比

● 日本	▶	▲4,336百万円	5.9%減
● 北米	▶	+236百万円	3.4%増
● 欧州	▶	▲3,200百万円	48.0%減
● アジア	▶	▲6,881百万円	21.8%減

## 直前期比

● 日本	▶	+3,849百万円	5.9%増
● 北米	▶	+1,081百万円	18.0%増
● 欧州	▶	▲970百万円	21.9%減
● アジア	▶	▲7,317百万円	22.9%減

## 為替レート

	2019/3期 実績 (円)	2020/3期 実績 (円)	1%変動による影響額 (百万円)		2021/3期 前提 (円)
			売上高	経常利益	
米国ドル	110.91	108.74	1,680	38	—
タイバーツ	3.43	3.52	235	14	—
人民元	16.72	15.78	194	8	—
香港ドル	14.14	13.91	210	4	—

## <memo>



.....

.....

.....

.....

.....

.....

## <memo>



.....

.....

.....

.....

.....

.....

## <memo>



.....

.....

.....

.....

.....

.....

# 『すべてはお客様のために』



**問合せ先：IR・広報室**

〒101-8629 東京都千代田区神田松永町20番地

TEL:03-5657-0106

FAX:03-3254-7133

E-mail : [webmaster@taxan.co.jp](mailto:webmaster@taxan.co.jp)

<https://www.taxan.co.jp>

■ 将来見通しに係わる記述についての注意事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報および合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

■ 本説明資料における表示方法

数値：表示単位未満を四捨五入

比率：円単位で計算後、表示単位の一桁下位を四捨五入